

阪神北地域夢会議 会議録

- 1 テーマ：兵庫 2030 年の展望～阪神北地域でどう暮らす、どう生きる～
- 2 開催日：平成 29 年 12 月 10 日（日）13:00～16:00
- 3 場 所：三田市商工会館
- 4 出席者：78 名（ビジョン委員 15 名、一般 40 名、来賓 6 名、専門委員 2 名、
アドバイザー 1 名、オブザーバー 4 名、兵庫県 10 名）

5 内容

(1) 開会（13:00～13:35）

(2) グループ討議（13:40～15:00）

テーマ「暮らしの質」

議題：健康寿命（①-Aグループ）、ワーク・ライフ・バランス（①-Bグループ）、
環境（①-Cグループ）、防災力（①-Dグループ）

テーマ「未来への投資」

議題：子育て環境（②-Aグループ）、人づくり（②-Bグループ）、
起業（②-Cグループ）

テーマ「交流の拡大」

議題：観光交流（③-Aグループ）、アジア等との経済交流（③-Bグループ）

(3) 全体会（15:10～16:00）

○グループ討議発表

<健康寿命（①-Aグループ）>

- ・健康に長生きする秘訣は動くこと、笑うこと。元気で長生きしても、働かずに遊んでばかりも残念だ。
- ・大事なことは、①地域活動に積極的に参加する、②笑う、歩くを継続して実践する、③あいさつ、声かけを日常的に心がけることである。
- ・今日行くところが教育につながる。何か目的を持ち、継続して体を動かすことが健康につながる。

<ワーク・ライフ・バランス（①-Bグループ）>

（現状）

- ・仕事が多く収入が少ない今の若者は、金銭的にも精神的にも余裕がない。
- ・若い人にはシングルマザーや父子家庭も多く、子どもたちは家にも学校にも居場所がない。

（解決方法）

- ・①地域活動に積極的に参加すること、②仕事場や家以外でストレス発散できるような場所を自分で持つこと、③物事に対して一歩踏み出す勇気を持つことの3つが大事。また、解決には行政の力も必要不可欠である。

（あるべき姿）

- ・2030年に向けて目指すべき姿は、生活の時間、家族の時間を大切にするのが当たり前になる社会。
- ・やりがいを持って仕事や地域活動に参加できるようになる社会にするには、高齢の方への交通手段の確保や、ボランティアへの適切な報酬も解決すべき課題となってくる。

<環境（①-Cグループ）>

（現状・課題）

- ・里山が荒れている、人が普段近づけないような状況になっている。
 - ・町中でも空き家が目立つようになってきた。また様々な店舗の看板が景観を損ねている。
- （解決方策）
- ・里山を整備すれば人が近づきやすくなり観光産業にもつながるし、森林を癒しの場として活用できる。また、木材を利用した薪づくりやシイタケ栽培にも活用できる。
 - ・空き家についてはすぐに取り壊すのではなく、古民家をカフェや公民館、児童館に活用するなど再利用することで人が集まるのではないか。
 - ・目立ちすぎ、景観を損ねる看板への対応については、民間だけではもめてしまうので、条例制定など行政側のサポートも必要になる。

<防災力（①-Dグループ）>

（現状・課題）

- ・高齢者が増えてくるとなると要援護者対策が今以上に重要になってくる。
- ・市町が作成している災害想定マップも周知がなかなか行き届いていない。防災訓練もどのように地域全体に拡げていくかが課題である。
- ・阪神北地域では、土砂災害、河川災害が問題となってくると思うが、太陽光発電パネルが多く設置されている土地の保水力低下についても危険性が指摘されている。

（解決方法）

- ・日頃の近所づきあいを活かしていく、あるいは防災コミュニティの形成、という形で日頃の活動が解決のカギになる。
- ・災害発生時、市役所などは情報収集に手一杯でなかなか隅々まで手が届かないため、自分たちで何とかしていかなければならない。自助の部分が重要。
- ・昼間、若者を含めた働き手は大阪や神戸に行っているため、近隣の大学や高校の力を活用できないか。
- ・地域の団体だけでなく大学や高校を巻き込んだ防災訓練を行うことや、防災マップについても作るだけでなく、その情報について地域住民に認識していただく取組みが必要。

<子育て環境（②-Aグループ）>

（現状・課題）

- ・男性の育休取得率が低いことや保育所が足りないなど、出産後の仕事と育児の両立に対する不安がある。
- ・病院も、三田市では夜間に子どもが病気をした場合、神戸まで行かなければならないというハード面でも課題がある。
- ・そもそも、子どもを含めた教育への関心が薄くなっているのではないか。子どもの声が届いていないのではないか。

（解決方法）

- ・育休制度を幼少時、小学校入学時など段階的に整備した方がよいのではないか。
- ・男性も育休を取りやすい制度の整理ができた方がよい。

- ・ 保育所や病院の整備については民間や行政に頼らざるを得ない。
- ・ 子どもへの教育や関心が薄いことについては、相談できる場所やネットワークが必要。相談できる場所は市役所など既存の場所を活用しつつ、新しい施設を作ることも大事ではないか。
- ・ 意識改革という点で、子どもに対して優しくできる大人をつくっていく大人への教育や、子育てのプロを作っていく教育なども必要である。
- ・ 子どもは宝である。まずは子どもを大切にする、そして子どもを育てる親に対するケアも重要、両面からの支援が必要である。

<人づくり (②-Bグループ) >

(現状・課題)

- ・ 子どもの不登校には、貧困による格差もあるのではないか。
- ・ 目に見えるいじめには対応できるものの、携帯電話やネット環境が普及する中、保護者や先生が把握できないような陰湿ないじめが増えている。
- ・ あいさつのできない子どもが増えるなど、地域内でのコミュニケーション不足がある。
- ・ 地域内で働く人が減少するなど、地域内人材が流出している。

(解決方法)

- ・ 親向けの勉強会の実施、子どもの逃げ道として学校以外で交流できる場所の確保や、子育てサロンを設置したり、現在行われていない小・中・高校生の保護者向け講演会や勉強会を行う。
- ・ 多世代交流の機会をつくる。

(あるべき姿)

- ・ 放課後じばやん倶楽部のような活動を拡げる。
※ 三田じばやん倶楽部。おじいちゃん、おばあちゃん、若者(やんぐ)が集まることから命名
- ・ 地域行事や伝統行事の活用を進め、それに対する若者の人材づくりを進めていく。

<起業 (②-Cグループ) >

(現状・課題)

- ・ 人口減少、少子高齢化の進展、空き家率の上昇が挙げられる。また、県内の若者が就業や就職で県外に出てしまうため、まちの活力がだんだんと低下している。
- ・ 若者や今勤務をしている人は、安定を求めて起業に踏み出せない。

(解決方法)

- ・ 地域のにぎわいを創出するためには、AIやIoTといったハイテクもちろん重要だが、ハイテクではない地域に住んでいる住民が気軽に利用できる店やサービスが、その地域に数多く生まれることも重要。

(解決方法)

- ・ 後継者がいない企業がやむなく廃業せざるを得ないような現状を踏まえ、創業したい人と廃業せざるを得ない人とをマッチングさせる場の整備が必要。また、空き家をチャレンジショップに活用する、起業しやすい税制や年金制度の環境整備を進めるべき。

(あるべき姿)

- ・ 次々と新しい事業や業種が生まれる地域、税制も含めもっと起業しやすい環境の実現が望まれる。

<観光交流 (③-Aグループ) >

(現状・課題)

- ・阪神北の観光資源というと、三田市では有馬富士公園や人と自然の博物館や農産物。宝塚市であれば歌劇や小林一三や手塚治虫。伊丹市であればスカイパーク。川西市であればイチジク。猪名川では道の駅。観光資源は様々あるが、知名度が低い。
- ・宝塚、川西、三田はそれぞれ公共交通機関の結節点であり、観光スポットも多数あるがそこをつなぐ交通網が未発達であるなど、観光資源が活かされていない

(解決方法)

- ・交通インフラ企業と関連する行政のタイアップによる、知名度アップ大作戦の展開。外部から来る人は公共交通機関を利用する人が多いはず。伊丹空港や阪急、JRなど公共交通機関を利用した知名度アップを図る必要がある。
- ・様々な食文化があり歴史上の偉人がたくさんいる。食文化と歴史、自然のコラボによる観光資源の掘り起こし、例えば白州次郎がこれを食べたとか、川本幸民がつくったビールを味わってみるなど。

(あるべき姿)

- ・連携やPRを進めることにより、阪神北と言えこれ、という観光資源が出てくるようになれば一番よいのではないか。

<アジア等との経済交流 (③-Bグループ) >

(現状・課題)

- ・海外からの客は文化や言葉の違いもあり、全国で見れば東京や大阪に人が集まる。県内では神戸、姫路に人が集まり、阪神北や、もっと言うと県中部より北にまでは行かない。
- ・アジアというどうしても台湾、韓国、中国がメインで、他の国のイメージが薄い。

(解決方法)

- ・文化や言葉の違いは外国の方に道案内をするときのように、何とかしようとする気持ちがあれば乗り越えられる。
- ・知名度が低いエリアは第一次産業がメインの所が多い。三田牛や黒豆などの特産品を、アジア諸国で農業に従事している人や食品産業に携わっている人にPRすることが必要。

(あるべき姿)

- ・アジアという日本が一番経済的に発展しているなど、上から目線で「教えてやっているんだ」という姿になってしまいがちだが、そうではなく相互に教え合う姿勢が大切。
- ・現在国際化が進み、隣人が外国の方でも不思議ではない時代になっている。草の根交流が大事。

○感想・質疑応答等

- ・地元に住んでいながら地元の歴史を知らないということがある。例えば三田であれば昔は城下町であった。そういったところをもっとPRし、外国人観光客の誘致につなげたり、その中で若者が集まることができるコミュニティの場をつくるなど、そういった取り組みができれば魅力あるまちになるのではないかと思った。

→三田が城下町というのは最近知られてきた。特にニュータウンの方が、明治維新の際多くの人材を輩出したので、三田が持っている進取の気風を出していけるようなイベントをJCと一緒にやりたいと考えている。(森三田市長)

- ・子育て環境のグループは年配の方と若い方が議論する中で、子育てに関してどのような意見の違いがあったか。

→20~30代は、保育所に入所するまでと入所した後の話が主に出てきた。人生経験が豊富な方からは、子育ては高校を卒業するまでだという視点からのご意見が多かったように思う。(参加者)

○金澤副知事コメント

- ・今、目の前に見える課題を何とかしよう、して欲しいという気持ちは湧いてくるが、2030年という結構微妙な未来で、展望するのは難しいと皆さん感じられたのではないかと。
- ・スマートフォンのように、分野によってはわずか10年ちょっとで大きく変化し、それが社会全体に大きな影響を及ぼす可能性がある。未来を見通すことは難しいが、そういうことを視野に入れ、今のうちからできることを議論しておこうというのが2030年の展望である。
- ・高齢者がしゃべる、笑うを継続する。これからますます高齢化が加速する中で、健康であり続けるためにコミュニケーションを日頃からとれる状態を続ける。それだけで、健康寿命に大きな影響があるかもしれないということに気付かされた。
- ・ワーク・ライフ・バランスでは、家族を大切にすることが当たり前になるように、という話があったが、この「当たり前」の部分に感じるものがあった。考えてみると、働くために生きるのではなく生きるために働くのである。自分の生活や人生、家族が大切なのは当たり前だが、それをみんなが当たり前とっていないということに気付かされた。いつの間にか我々は高度成長の中で働くこと、稼ぐことの方が大事だと思っていないか、と言われたようだった。
- ・太陽光発電のリスクの一つに、急速に太陽光発電が普及し同時に耐用年数を迎えた場合、大量のゴミが発生するが、これをどうするのかという問題がある。いいことの裏には必ず陰の部分があるということを指摘していただいたように思う。
- ・子育て、人づくりでは、大人への教育が必要だという部分。子育てというと子どもに目が行きがちだが、その子どもを育てる大人を支えたり育てたりすることの大切さをご指摘いただいた。親向けの勉強会についても、先進的なところでは子どもが親に使い方を教えることで、子ども自身も改めて自分が使っている道具の問題点や意味がわかる。子どもが親に教えるという関係の必要性に気付かされた。
- ・観光交流においては、食文化と歴史を組み合わせる必要性を感じた。どちらかだけに目を向けるのではなく、地域の財産を上手く組み合わせることが重要だをご指摘いただいた。
- ・外国との交流では、上から目線ではなく、むしろ他の国のいいところを発見すべきという意見があったが、そのとおりだと思う。今日本は、訪日客が多く、有頂天になっているところがあるかもしれない。来てくれる国のいいところに気づけるような人たちが住んでいる国でなくては、魅力がないように思う。
- ・阪神地域の非常に大きな財産は人材。今現在活躍されている人だけでなく、リタイア後、能力はあるが活動をされていない方も含め、人材は豊富である。
人材を上手くつなげ、地域のために力を発揮していただけるような仕組みを作ることや、人材のネットワークづくりが、これからの阪神北地域づくりの大きなポイントだと思う。
- ・もう一つの財産は里山。都市と自然が非常に近く、多様な資源と宝物を持っている。これは潜在的な資源であるが、妙な形で開発されずに手の内に残っているとも言える。外国人がわっと集まる場所もいいが、一方で、地元の人々が本当に大切に思えるようなものを丁寧につくっていくことも必要。そういう丁寧につくられたものは、外国の人から見ても素晴らしいものに映ると思う。
- ・本日いただいた意見も含め、さらに2030年の展望について議論し、県民全体で思いを共有し、こういう形であつたらいいなと思う2030年の兵庫の姿をつくりあげていきたい。まだこれからも議論は続くが、これからも知恵をお借りしたいと思う。